

基盤技術推進専門部会（第23回）議事要旨（案）

1. 日 時：平成9年9月19日（金）10:00～12:00

2. 場 所：科学技術庁第7会議室（通産省別館9階）

3. 出席者：

（原子力委員）

田畑委員

〔専門委員〕

澤岡部会長、飯泉委員、岩田委員、岡本委員、佐々木委員、霜田委員、鷺見委員、

武部委員、田村委員

（科学技術庁）

中村原子力局研究技術課長

4. 議 題

（1）原子力基盤技術開発の推進について

①原子力研究推進方策検討ワーキンググループ及び委託調査について

②原子力基盤クロスオーバー研究第四期の進め方について

③平成10年度以降の研究評価について

・平成10年度新規課題について

・研究評価システムの見直しについて

（2）その他

5. 配付資料

資料第23-1号 「基盤技術推進専門部会委員名簿」

資料第23-2号 「第22回基盤技術推進専門部会議事概要（案）」

資料第23-3号 「原子力研究推進方策検討ワーキンググループについて」

資料第23-4号 「平成10年度原子力基盤技術開発新規課題」

参考資料-1 「原子力分野における基礎的な研究の推進に係る調査」

参考資料－２ 「国の研究開発全般に共通する評価の実施方法の在り方についての大綱的指針」

6. 議事概要

(1) 事務局より以下の新任委員の紹介が行われた。

井澤 靖和 委員

岡本 眞實 委員

佐々木康人 委員

鷺見 敏彦 委員

(2) 事務局より前回議事概要（案）の説明があり、承認された。

(3) 「原子力分野における基礎的な研究の推進に係る調査報告書」及び原子力研究推進方策検討WGについて、岩田主査より報告があり、以下のような議論があった。

- ・スタンダードレファレンスとしては、今後は文献引用数の他にインターネットによるダウンロード数も重要なファクターとなる旨のコメントがあった。
- ・原子力の基本はエネルギーであり、このキーワードを常に念頭に置くべき旨のコメントがあった。
- ・医学分野の充実を望むと同時に、この分野の最終目的は治療であることを改めて確認するよう要望があった。

(4) 澤岡部会長よりクロスオーバー研究第3期の展開について、ワーキンググループの設置に先立って、その検討方針を定める準備会合発足の提案があり部会長自身が主査をつとめ、飯泉委員、岩田委員他若干名で構成する旨の提案があり了承されたが、これについて以下のような質疑応答があった。

- ・クロスオーバー研究に携わる現場の意見を取り上げるのかという質問があり、部会長から推進委員会等を通してそういう機会を設ける旨の説明があった。

(5) 事務局より内閣総理大臣決定による「国の研究開発全般に共通する評価の実施方法のあり方についての大綱的指針」の紹介があった。

(6) 部会長より現行の評価のあり方を見直す必要があり、クロスオーバー研究第3期とも関わってくる旨の指摘があった。また、研究評価あるいは基盤技術のあり方に関し、以下のような意見が出された。

- ・評価に競争原理を導入するべきである。
- ・クロスオーバー研究の趣旨から鑑みて単純に数字を比べるような評価はするべきではない。

- ・評価と推進を含めてこの部会に期待されていることは、もっと原子力に対し大きな視野をもって取り組むべきである。研究機関ごとの課題の調整、協力についてももっと慎重に検討するべきである。
- ・中国などの例を見ても分かるとおり、日本だけが原子力政策を縮小しても広い視野に立てばマイナスになるだけである。もっと世界を見通して原子力の将来を展望するべきである。
- ・電力関係者が抱えている諸問題についても国研、法人に積極的に取り上げてもらいたい。

(7) その他

次回の日程は、新会長が決定し、事務局から連絡することとなった。